◆県連大会報告 第63回定期大会

◆第1分散会

磯﨑美幸・代議員（新宮）

就労、生活実態は年齢に関係なく非常に厳しい。就労形態は、日雇いなど不安定な仕事が多く、年金や健康保険の滞納問題も少なくない。また、母子家庭率は国や市の平均数を大きく上回り、就労は非正規雇用が大半。ファミサポ事業もできたが、利用時間に幅がほしい。

磯岡靖美・代議員（湯浅）

統一地方選での石本一也・組織内候補の必勝にむけた決意とお願い。法の具体化を町行政に求めとりくみをすすめている。法の理念を生かし、町条例の制定を求めている。昨年の「障がい者」差別をうけて、今年度中に「障がい者差別解消」の条例が策定の予定。

清水千秋・代議員（杭ノ瀬）

DV、セクハラ、パワハラの基礎知識を学び、ワークショップで深める研修会と救済システムの構築を。女性の執行委員を増やしてほしい。統一地方選での藤本眞利子・組織内候補の必勝にむけた決意とお願い。

上中佐知子・代議員（平井）

組織強化について、県連組織をあげて全支部へのオルグの必要性と一昨年議論になった女性の副委員長の実現について。

歌坂憲彦・代議員（平井）

「障害者差別解消法」は障がい者の権利条約を批准するために整備された法律。権利条約は社会モデルとして機能している。複合差別、女性の障がい者、部落の障がい者、子どもの障がい者として明記されている。県障害者差別解消支援地域協議会が設置されるなか、部落の障がい者という立場で地域協議会に入ることが大事。複合差別、部落の障がい者という考え方が理解されていない。県地域協議会が設置される以前から、県連として地域協議会への参加を要求してきたが、立ち上げ段階で県から参画を拒否した。これらは、県が県連にもつ不信感、地域協議会を構成する団体の誤解（糾弾や行政闘争）などの問題が隠れていると思う。そのことは、糾弾すべき大きな問題。

宮本睦・代議員（那賀）

全女のお礼と全支部で女性部の確立をめざしたオルグ行動について。モニタリング事業について、具体的にどのような手法で実施されるのか、全市町村に広げるためにどのようなとりくみを展開するのかお聞きしたい。

中川謙二・代議員（古和田）

西光万吉邸が3年目のお礼と2020年3月20日に没後50年を迎えるにあたり、戯曲や和栄運動の軌跡を紀の川市や県指定をめざすこと、古和田会館にエレベーターが設置されたことを報告。

◆第2分散会

橋本翔太・代議員（新宮）

青年の就労実態は極めて厳しいなか、子ども会や青年部活動といった次世代を担う活動家の育成が困難。また、高齢化によってコミュニティバラスが崩れている状況がある。子どもの教育や就労・仕事保障など、各運動部で議論し将来につながるものを模索してほしい。

山田圭志・代議員（古和田）

第1分散会報告と同じ

竹中多恵子・代議員（湯浅）

・第1分散会と同じ

森瑞貴・代議員（杭ノ瀬）

青年部活動について、子ども会行事や県連青年部活動への参加で、独自の活動ができていない。県連として若年世代に学習の機会をつくってほしい。また、青年の不安定就労の実態をふまえ、貸与型の奨学金制度から給付型奨学金制度へ移行させるための強力なとりくみをお願いしたい。統一地方選での藤本眞利子・組織内候補の必勝にむけた決意とお願い。

小西規夫・代議員（那賀）

市町村合併で隣保館が生涯学習センターに後退させられたが、現在は隣保館に戻す交渉をしている。法制定後、昨年4月から人権相談員が設置され、一歩前進した。法制定後の条例について、どのような条例闘争を

（5ページへ↖）

今後の日程

10月

23　狭山ビラ統一行動
　　映画「獄友」上映会（あじさいホール）
26　第2回モニタリング団体ネットワーク会議（大阪市・HRCビル）
30　部落解放・人権行政確立要求第2次中央集会（東京・日本消防会館）
31　第5回和歌山市障害者差別解消調整委員会（中保健所）
　　狭山事件の再審を求める市民集会（東京）

11月

1　教宣部会議・事務局会議
3　第50回全国高校生集会・第62回全国青年集会報告会およびバーベキュー交流会　（同和企業センター）
5　第2回全国女性運動部長会議（大阪市）
6　第6回中央執行委員会
9～10　連合徳島「反差別研修」の講演・フィールドワーク（西光万吉邸・平井）
10　部落解放第50回全国高校生集会・第62回全国青年集会総括会議（大阪市・HRCビル）
13～14　対和歌山県交渉（和歌山県民文化会館）
　　部落解放共闘第35回全国交流会及び地方共闘全国連絡会第35回総会（徳島市）
15　和歌山同企連研修（大阪市・神戸市）

◆各市町村交渉

10/24　田辺市
11/5　紀の川市・2次交渉

◆各支部大会

10/19　杭ノ瀬支部女性
11/7　芦原支部女性部

各地でメーデーひらかれる

第89回メーデー和歌山県中央集会が4月28日、和歌山城砂の丸広場でひらかれ、和市ブロックから約50人が参加し、狭山パンフビラの配布とデモ行進した。

多くの労働者があつまった中央集会

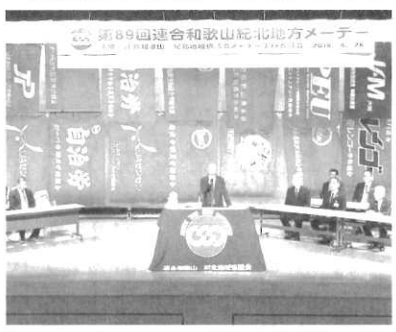
今年のスローガンは「平和・人権を守り、差別をなくそう」と記したプラカードや団体旗、横断幕などを掲げ、和歌山城岡口門を出発。「労働規制の緩和を許さないぞ」「安心できる社会保障制度をつくれ」と訴えながら、三年坂通り、屋形通り、けやき大通りを経由し、同広場までの約3キロを歩いた。式典では、仁坂吉伸・県知事をはじめ、多くの来賓が出席するなか、実行委員会の池田祐輔・委員長から「労働運動は、より良い職場、社会の構築に向けた変革の原動力でなければならない。先頭に立ち、安心社会の実現に向けた流れを加速させたい」とあいさつがあった。

東牟婁のメーデーのようす

第89回連合和歌山 紀北地方メーデー

4月28日に連合紀北地方メーデーがホール田園（紀の川市・南別館4階）で開催され紀北ブロックからは、飯田敬文・県連副委員長をはじめ、県連紀北ブロック各支部から参加した。

はじめに、主催者を代表して連合和歌山紀北地域協議会の中岡匡英・実行委員長が「紀北地域協議会として組織拡大政策制度要求をはじめあらゆる分野での運動をおこない雇用の形態に関わらず安心して働き笑顔をもって暮らすことができる社会を築くため労働運動をさらに展開していきたい」とあいさつした。その後、〈メーデースローガン〉「平和・人権を守り、あらゆる差別をなくそう！働く者のための働き方改革をすすめ、すべての仲間と結集しよう！」また、メーデー宣言（案）をハバジット日本労働組合の山本佳孝・メーデー副議長から提案された。最後に、関西電力労働組合の松尾知也・メーデー議長代行から閉会宣言され、第89回連合紀北地方メーデーが閉会した。



紀北地方のメーデーのようす